

総合的な学習の時間「紫野タイム」学習指導案

指導者 京都市立紫野小学校 居澤 茜

1. 日 時 令和3年6月24日（木） 第6校時（14：20～15：05）
2. 学年・組 第4学年2組（23名）
3. 場 所 4年2組教室
4. 単 元 名 「助け合う紫野」4月～8月 総時間27時間

5. 単元の目標

地域で暮らす視覚障がいのある方々との交流や、パラリンピックについて学ぶこと、友達と考えを交流することを繰り返したり、自分たちの考えを提案したりする等の活動を通して、障がいのある人々の生き様やパラリンピックの意義を理解し、共生社会の構築について考えるとともに、自分にできることを実践しようとすることができる。

6. 単元の探究課題と育成を目指す資質・能力及び評価規準

【探究課題】障がいのある人々の姿と自分たちにできる取組（福祉）				
育成を目指す資質・能力	探究課題の解決を通して	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
		視覚障がい者やパラリンピアン の生き様やパラリンピックの意義を理解し、自分が共生社会を構築していくことを自覚し、実践することができる。	実際にライトハウスを見学したり、利用者にインタビューをしたり、友達と話し合ったりする中で、福祉・共生社会に関するさまざまな情報を集め、比較したり共通点を見つけたりしながら自分の考えを深めている。	障がいのある人々との関わりを見つめ直し、どのようにかかわっていけばよいのかを考え、できることを友達と協力して実践し、学んだことを生かして大切にしていこうとする。
単元の評価規準	観点 過程	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	発見過程／追究過程	・地域にある「京都ライトハウス」は、視覚障がいのある人々が生き生きと生活できるように取り組んでいることや、利用者さんたちの生き様について理解している。	・「京都ライトハウス」について学ぶ中で、これまでの自分の「障がい」についての考えと関連付けたり比較したりしながら、疑問や思いをもとに課題を見付けている。（課題の設定） ・疑問や調べたいことについて様々な方法から選んで情報を収集している。（情報の収集） ・集めた情報を整理・分析し、障がいのある人々の生き方を考え、まとめることができる。（整理・分析、まとめ・表現）	・3年生の時に学習してきたことを振り返りながら、地域の「こと」や自分についての力について友達と交流しようとしている。 ・視覚障がいのある人々の思いを受けて、意図的・積極的に課題とかかわろうとしている。

	<p>提案過程／熟成過程／表現過程</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピックの価値は「勇気」「強い意志」であることを理解する。 ・用具で「できない」を「できる」に変えていることや、助け合って生きていることは自分たちも同じであることを理解する。 ・自分たちが共生社会を構築していく一員であることを自覚している。 ・集めた情報のつながりに気付き、キーワードで整理したり、それらを図や文章でまとめたりする方法が分かっている。 ・自分たちにもできることがあり、それらを実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共生社会の構築に向けて自分の生き方について考え、障がいに関係なく、公平に一緒に楽しむことができるような方法やそのための策を考えている。(課題の設定) ・自分が考えた「助け合う紫野」のプランを実行する上で必要な情報を適切な方法で集めている。(情報の収集) ・集めた情報を整理したことをもとに、より伝えたいことや伝わりやすい内容や方法を考えている。(整理・分析) ・自分の考えた「助け合う紫野」を実現するための提案について分かりやすく伝える方法を考え、表現している。(まとめ・表現) 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある人々の生き様から、自分も強い意志をもち、勇気をもって粘り強く努力していこうとしている。 ・共生社会の構築に向けた課題の解決方法を、友達と何度も話し合い、協働して粘り強く探ろうとしている。 ・「障がいのある人々との共生」に対する自分の考えが変容した理由に気付き、今後も継続して大切にしていこうとしたり、自分にできることを実践したりしようとしている。
--	------------------------------	---	---	--

7. 探究課題について

本学年は、楽只小学校と紫野小学校が統合して3年目となる。従って、2年生の時の生活科や3年生の時の社会科、総合的な学習の時間において、自分たちの住むまちに関する学習をする中で、「紫野小学校区」は「楽只学区」と「紫野学区」を示すことを理解している。3年生の時の総合的な学習の時間では、校区にある商店街「船岡共栄会」について人々の思い、願い、工夫について学習し、自分に何ができるのかを考えたり、愛着を深めたりしてきた。児童に、昨年度はどんな学習をして、どんな力がついたのか尋ねると、「他の商店街と比べて考えた。」「インタビューをしたり、インターネットで調べたりした。」「プログラミングをした。」など、一人一人が自信をもって振り返っていた。自分たちで調べ、「LINE entry」を使って調べたことをまとめてみんなに伝えたことや、ハロウィンフェスティバルを盛り上げるために取り組んだことは、まさに探究的な学習だったと言える。このような学習経験を土台にして、児童の学びをより一層広げ、深めるために探究課題を設定したい。そこで、今年度は地域の「伝統」と「福祉」に着目し、単元を2つ設定する。1つは『『玄武やすらい祭』を世界へ！』紫野に古くから伝わる伝統文化「玄武やすらい祭」を知り、伝統を受け継ぐことの意義を考える。

そしてもう1つが本単元「助け合う紫野」である。児童は学年目標にも「助け合う4年生」を掲げている。その思いを学年から学校、地域に広げていきたい。そこで、楽只学区にある「視覚障害者総合福祉施設京都ライトハウス」や今年度日本で開催される「東京パラリンピック」を中心に、探究活動を進めて行く。京都ライトハウスは、「京都に盲学生のための図書館を」という視覚障がい者の願いを受け、1961年に創立された。その後、情報化社会の進展、障がいの重度化、ニーズの多様化に応えるため、視覚障がい者に対する情報・福祉サービスを中心としつつ、視覚障がい以外の障害も対象とした事業展開も図り、障がい者の総合施設として発展してきた全国でも注目されている施設

の一つである。児童の多くは、存在は認識しているが詳しく知らない。児童は「視覚障がい者」の存在を知ると、「目が見えにくい、見えないということは、おびえて静かに暮らしている、暗い性格」などの偏見を持つだろう。そこで、施設について学んだり、利用者さんと交流したりすることで「障がい者」のことを正しく理解し、「知ろうとすること」や「できることに着目すること」の大切さに気付かせたい。併せてパラリンピックの歴史や価値、選手について学習し、自分にできることを考える中で、偏見を持たずに一人一人が大切にされ、幸せに豊かに暮らせるような共生社会を構築するのは自分たちであることを自覚してほしい。また、道徳科や国語科「思いやりのデザイン」、などとカリキュラムマネジメントし、「自分も目標をもち、諦めずに努力すること」「障がいに関係なく、公平に一緒に楽しめるように考えること」「自分も助け合いながら生きていること」などに、気付いてほしい。

また、ICT の活用能力もこれからの時代に欠かせない。今年度から本格的に始まったGIGA スクール構想においても、その重要性が強調されている。活用するにはまず慣れることが大切であると考えるので、毎日 I C Tを活用する機会を設けるよう意識している。総合的な学習の時間「『玄武やすらい祭』を世界へ！」でも、昨年度に引き続き「LINE entry」を活用し、本単元では学習したことをロイロノートに蓄積していき考えを広げたり深めたりするために活用する。

以上のように、児童が探究的な見方・考え方を働かせながら横断的・総合的な学習に取り組むことにより、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成したい。そして、大人になっても心豊かに幸せに暮らせるように、願っている。

8. 単元構想図

別紙参照

○単元で育成することを目指す具体的な資質・能力に関連する教科等

2年 生活科	<p>「大すき いっぱい わたしのまち」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で生活したり働いたりしているさまざまな人々がいることを知る。 ・地域のさまざまな場所に親しみや愛着をもってかかわり、安全に楽しく生活しようとするよさについて理解する。
3年 社会科	<p>「学校の周りの様子」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観点に基づいて観察や聞き取り調査をしたり、地図や写真などの資料を活用したりして、校区の様子についての情報の集め方について知る。
4年 国語科	<p>「新聞を作ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真や図表を組み合わせて、事実を分かりやすく伝える。
4年 国語科	<p>「聞き取りメモのくふう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的に合わせて聞き取り、要点をまとめる。相手の顔を見ながら聞く。 <p>「思いやりのデザイン」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場に立って考えること、自分も助けられていること、社会は助け合いで成り立っていることに気づく。 <p>「お礼の気持ちを伝えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習でお世話になった方がいることに気づく。お礼の気持ちを伝える。
4年 道徳科	<p>「きめつけないで」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが公平に楽しめるように工夫する <p>「ええことするのは、ええもんや！」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親切はほめられるためにするのではないことに気づき、ボランティアとして気を付けたいことについて考えを深める。

○本時が位置する学習過程の評価・支援計画表

本時が位置する学習過程（全5時間）		● 評価の視点と方法 ・ 主な支援 ● 関連する教科等
学習課題	活動 子どもの言葉	
提案課題	「パラリンピック」について調べよう。	● 国語科「聞き取りメモのくふう」 ①②パラリンピックの価値や、歴史、使用している用具などについて理解している。 【知・技】 （授業観察・ワークシート） ・ 第5時で使用するため、ロイロノートに学習内容と振り返りを紐づけして残す。（以下同様） ・ 視覚的に分かりやすいように動画資料を使用する。ロイロノートにも資料を送り、一人一人が自分の
①パラリンピックって何だろう		
使用する用具で「できない」を「できる」に変えるんだね。眼鏡と一緒だね。 歴史があり、移り変わってきたんだね。		
②パラリンピアンってどんな人だろう		
困難を乗り越えて努力を続けられたのはどうしてだろう。パラリンピックの価値は「勇気」「強い意志」だね。		

③公平について考えてみよう

障害のある人と一緒にスポーツを楽しむには、どのようにルールを工夫できるかな。

④ライトハウスについて学んだことと比べよう

障害に関係なく、生き生きと楽しんでいるね。「できない」を「できる」に変える用具がたくさんあるね。自分たちも助けられて生きているね。

⑤学習したことを振り返ってみよう
(ロイロノート) 【本時】

自分の考えが広がったり深まったりしたよ。その人のことを勝手に決めつけていた。「正しく知ること」が大事だと分かった。自分も何事も諦めずにがんばりたい。障害に関係なく一緒に楽しめることができるように考えたい。自分たちが「助け合う紫野」を作っていくんだ。

知りたいことを観られるようにする。(国際パラリンピック公認教材「I'm POSSIBLE」)

- ③共生社会の構築に向けて自分の生き方について考え、障害に関係なく、公平に一緒に楽しむことができるような方法やそのための策を考えている。

【思・判・表等】

(授業観察・ワークシート)

●道徳科

「きめつけないで」

「ええことするのは、ええもんや!」

●国語科「思いやりのデザイン」

- ④⑤自分たちが共生社会を構築していく一員であることを自覚している。

【知・技】

(授業観察・ワークシート)

- ④⑤集めた情報のつながりに気付き、キーワードで整理したり、それらを図や文章でまとめたりする方法が分かっている。

【知・技】

(ワークシート)

- ⑤「障がいのある人々との共生」に対する自分の考えの変容した理由に気付き、今後も継続して大切にしていこうとしている。

【学・人等】

(授業観察・ワークシート)

9. 本時の目標

「京都ライトハウス」や「パラリンピック」について学んだことや感じたことを基に、「障がいのある人々との共生」に対する自分の考えが変容した理由に気付き、今後も継続して大切にしていこうとする。

10. 本時の展開 (12/27 時間目)

<p>学習活動</p> <p>(○主な発問及び指示・予想される児童の反応)</p>	<p>・指導者の手立て及び支援</p> <p>■ ICT 活用</p>
<p>1. これまでの学習を振り返り、本時の学習課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習で考え方が変わった。変わったことを「(自分)の変化カード」にまとめた。 「鳥居篤治郎さん」が一番心に残った。はじめは誰? と思っていたけど今はあこがれに変わった。 「公平」について一番心に残った。はじめは特別ルールでやさしくと思っていたけれど、知ることが大事だと分かった。 「パラリンピック」について心に残った。はじめは危ない、ゆっくり楽しむと思っていたけれど、激しい戦いをおうえんしたいと思うようになった。 「香西選手(パラリンピアン)」が心に残った。はじめは障がいがあるのに努力してすごいと思っていたけど、自分と一緒に思うようになった。 「すごい」「かわいそう」という言葉について心に残った。はじめはやさしい気持ちだと思っていたけれど今は気を付けて使いたいと思っている。 考えが変わったのは、感動した学習があったから。 友だちに伝えたい。 友だちの発表も聞きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の流れを把握し、主体的に活動できるようにするため、側面掲示だけでなく、各自のロイロノートにも毎時間のめあて・課題や板書、資料(吉田さんの Zoom インタビュー動画や、授業で使ったスライドなど)、自分の振り返りを整理させておく。 前時までに「特に心に残っていること」とそれに関する「はじめ」と「今」の考えの違いをワークシートに記入し、自分の考えがもてるようにする。 ロイロノート(資料整理・分析) そのワークシートをもとに自分の変化をスライドで表現し、伝えたい、知りたい意欲を高める。 ロイロノート(スライド作成) 「今」については(思い・考え)と(これから)に分けて板書していくことで、思考の広がりや深まりを可視化する。
<p>友だちの「変化カード」と比べよう。</p>	
<p>2. 友だちの発表と比べながら聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> (話型)「わたしは〇〇について一番心に残りました。はじめは〇〇と思っていたけど、今は〇〇と思っています。どうしてでしょう。」 (感動ポイントを伝え合う。) たしかに鳥居さんは心に残った。目が見えないとは知らなかった。ライトハウスの銅像は目をつぶっていたよ。見に行きたいね。 障がいのある人と一緒に楽しむには、本人だけでなく、対戦相手にもルールを確かめるなんて、びっくりした。本当に、障がいのある人と一緒に何か楽しみたいね。 パラリンピックっていつあるのかな。どんな競技があるのかな。もっと知りたいね。 上から目線にならないように言葉遣いにはこれからも気を付けないといけないね。知らない間に相手に嫌な思いをさせているかもしれないね。 	<ul style="list-style-type: none"> 対話的で深い学びとなるように、スライドを提示しながら説明させ、聞き手には、相違点をみつける、質疑応答するなど視点を提示する。(2人組) 対話的で深い学びとなるように、話し手はキーワードのみを伝え、聞き手に感動ポイントを想像させる。 ロイロノート 学びが広がったり深まったりしたことを可視化するために、ワークシートにメモをとらせる。

<p>3. 全体交流で、比べて分かったことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(上記のようなことを発表) ・感動ポイントや心に残ったことは違うけど、どれも大事なことだと思う。 ・自分もみんなも学習をして変化した。 ・友だちと話して、もっと知りたいことができた。 <p>4. 本時の学習を振り返り、次時の学習問題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいがある人達も幸せに豊かに暮らせるように、自分にも何かできることがあると思う。 ・自分もパラリンピックを応援して楽しみたい。 	<p>・「障がいのある人々との共生」に対する自分の考えが変容した理由に気づき、今後も継続して大切にしていこうとしている。</p> <p>【学・人等】 (授業観察・ワークシート)</p>
---	--

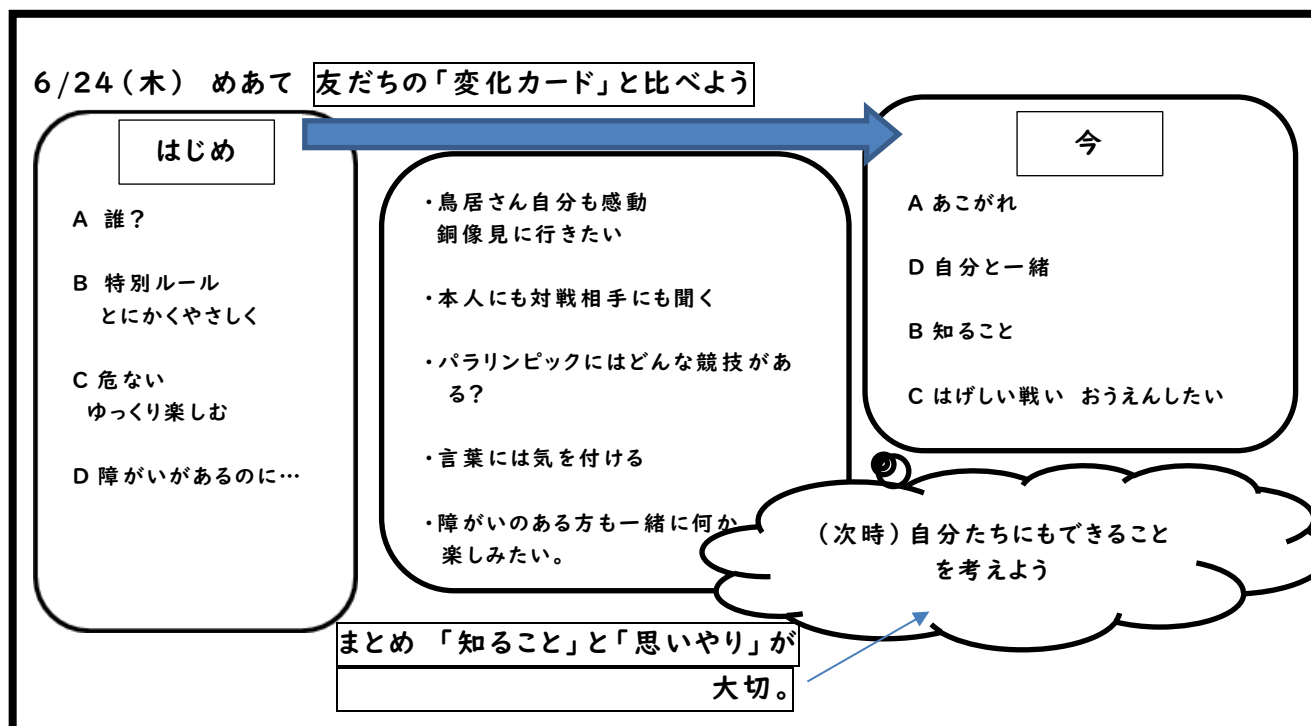
11. 評価（場面；視点・方法）

「障がいのある人々との共生」に対する自分の考えが変容した理由に気づき、今後も継続して大切にしていこうとしている。(学習活動2・3・4；【学・人等】(授業観察・ワークシート))

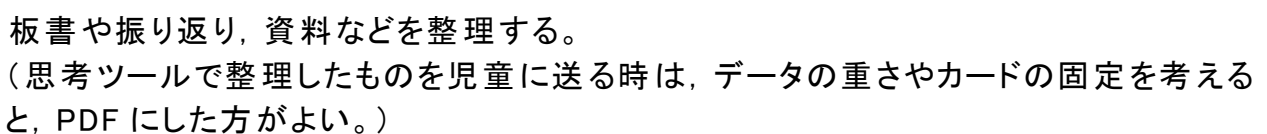
ループリック

A	B	支援を要する
自分の考えが変容した理由を具体的に明記し、共生社会の構築に向けて取り組みたいことを具体的に考えている。	自分の考えが広がったり深まったりした理由と、これから大切にしたいことを考えている。	自分の変容が書けていない。→変容を表す言葉を提示する。 理由が見付けられない。→「特に心に残ったこと」に関連するカードを示す。

12. 板書計画



これまでの学習のあしあとをロイロノートに残しておく。



本時作成するスライドのイメージ

